令和元年２次試験
合格体験記

令和２年１月１日

令和元年2次組　米納　嘉継

１．中小企業診断士に挑戦したきっかけ

本職で、生命保険・損害保険の中小・中堅法人向けセールスを企画・推進・支援する仕事に従事しており、以下の思いから、必要なスキルを探したところ、当資格であることに気づいた。

①経営者、企業関係者と同じ知識の土俵に立つ必要性を感じたこと。
販路拡大のお手伝いのためには相手の会社、業務、業種、製品・サービスを熟知する必要があり、ベースとなる知識が必要であったこと

②中小企業の経営者は、何かあるとまず税理士に相談。税理士が不得手のテーマでも。
そんな経営者の役に立ちたいと思ったこと

学習を開始した当初は受験する意図もなく、単に実益を兼ねた趣味程度の気持ちで取り組み。学習が進むにつれてせっかく取得した内容を試してみたい、との思いから受験を志す。

その後、勉強仲間のサークルを探すつもりでネット検索し、土日開催の「弱小」と遭遇。受験体制が整う。

２．学習歴・受験歴

趣味で始めたのが平成２７年１０月から。選んだ順番は製造業の世界を知りたくて、まず「運営管理」、次に経営学全般への関心から「企業経営理論」でした。

次に選んだのは「中小企業経営・政策」。理由は、中小企業を総論的に眺めたかったから。そして「経営法務」、「経営情報システム」を学習。ようやく苦手意識の強い「財務・会計」にたどり着き、一番最後に何でこんな科目があるんだろう感の強い「経済学・経済政策」に到達。

以後、２年間に７科目とも９～１１サイクル、読み込みと理解を深めた。ただし、過去問には一切触れていなかったので、単なるインプットにとどまり、その後弱小でその弱点に気づく。

学習場所は・・・

（１）趣味の期間は　①宅学（自宅での座学）、②電車旅での車内学習

（２）受験を志してからは　（１）の①・②に加えて、
③便座学習、④浴室学習、⑤会社内学習、⑥スポーツジム＆学習、⑦歩行学習
⑧テレビ視聴ながら学習・・・などなど、場に応じた勉強ツールを工夫して、
寸暇を惜しんで、まずは１次試験の受験体制を構築した。

３．学習方法

【１次試験対策】

ベースはTACのスピテキと過去問集。わからないことは必ずネット検索して出力し、
科目別にファイリング。（かなりの量に）
これに加えて、科目によって、下記の補足資料を併用

①運営管理･･･JIS Z 8141「生産管理用語」

②企業経営理論･･･「大学4年間のﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ見るだけノート」（宝島社刊）
※TACスピテキ外の知識を網羅したかったから

③中小企業経営・政策･･･ナマの白書は購入せず。
（白書は見ないほうがいいと判断。自分の能力では消化不良になるのがオチ。
自分の場合には、TACスピテキのみで十分でした！）

④経営法務･･･契約英語（英単語、英慣用句をネットで収集･･･消化不良に終わる）
期日シリーズ（時効、除籍期間、猶予期間などの●日、●カ月、●年シリーズ）
については、別ノート化し、特に集中鍛錬して点数を底上げした。

⑤経営情報ｼｽﾃﾑ･･･英イニシャル略字系（FEP、BEP、NIC、AESなど）は早見表を作成し、
ながら学習に供した。

⑥財務・会計･･･TACの「集中特訓（計算問題集）」

⑦経済学・経済政策･･･この科目はスピモンも購入し、応用力・地頭（じあたま）力を涵養

【２次試験対策】

①過去問（H13～H30年度の１８年度分×４科目）を２回ずつ実施
時間が足りず、ファミレスで昼食後、または着席できた電車移動時、も活用

②事例Ⅳ対策【合否を決める天下分け目と認識】
・可能な限り一日一問（朝または夜、１５分だけでも）、過去問やイケカコで「稽古」
・ミスをした箇所は別途小さなメモ書きをストックし束ねて携行。少しの空き時間でもながめて頭に刻み込み

③**甲田OB**による「実務補習ﾏﾆｭｱﾙ」（何しろ出題側たる診断協会の編）準拠の「戦略策定シート」策定・書込訓練　（Ｈ３１年１－３月に参加）

…これにより、２次試験固有の**「ﾄﾗｯﾌﾟ」「ﾉｲｽﾞ」「ﾀﾞﾐｰ」**の見破り鍛錬ができた。
出題者の題意（悪意）把握に役立った。

この訓練は、予備校に通えなかった自分にとって、まさに「体幹訓練」でした！

Ｈ13～30年の過去問を振り返ると、傾向が変わったかどうかは自分にはわからず。
文章量、質的レベル感の違いこそあれ、問われているものは普遍と思いました。
2次組の皆様にも体幹を鍛えていただき、乗り切れました！

次に重視したものが④です（⇒）

事例Ⅰ～Ⅲの時間配分（本番）
（最初の5分）設問要旨転記作業
（次の40分間）与件文読み込みとｶﾗｰﾏｰｷﾝｸﾞ、解答骨子練り上げ
（残り35分間）解答作成、見直し）

④ﾏﾗﾘﾝでいうところの「高地トレーニング」！

4月以降は常にタイムプレッシャー訓練を課しながら学習する。
本番よりキツイ訓練をしていれば、本番がラクになる。

□見慣れてしまった過去問なら、６０分の制約を課して実施。６０分でどこまでできるか見極める訓練（残る２０分で、また再開し理想な解答に仕上げる）
□２次試験直前は、やらずに残しておいた２次過去問（H29・30）を初見問題に見立てて“自宅で自主模試”
□２次試験前日も、5事例を1日で貫通実施し、一にも二にも「時間耐性」を鍛錬）

ただし、**体幹訓練**（前ページ③）あればこそ、生きてくるトレーニングなのでご注意を！

⑤本番での対応に向けた日常訓練
□【最初の5分間】メモ用紙（2次当日は…破いた設問用紙余白部分）に設問を書き写す
（この段階で、多重に課される設問要求、求められている解答構造を漏らさず把握）
⇒この「設問要旨転記作業」により、試験中、与件文と設問とを行ったり来たりの時間を節約

□**6色ﾌﾘｸｼｮﾝﾍﾟﾝ**（　）で、設問ごとにﾘﾝｸすべき与件抽出箇所をﾏｰｷﾝｸﾞ。間違っても消せる安心感♡。　ﾀｲﾑﾌﾟﾚｯｼｬｰの中で、細かい解答要素を見失わないための道しるべ。

⑥昨年と何を変えたか

取り組みの変更箇所は以下のとおり（「体幹訓練」・「高地訓練」以外を記載）

（１）ふぞろい的なキーワード詰込みをやめ、本当に必要なワードを厳選、「●●なので〇〇である」の構文で、聞かれずとも理由説明とともに、平易な文章作りを優先した。

※まったくの私見ですが、試験当局は人口知能を使用していてもおかしくない時代であり、内容の良さ、わかりやすさや一貫性を、より高得点に評価するロジックでの採点が可能と邪推しています（笑）
（娘の卒論をめぐる指導教授の談話・・・学生の論文評価や盗作摘発が機械化している云々）

（２）設問の要求する項目に対して忠実に（オウム返しに）解答要素を手当てして書いた。
【例】「最大の要素は・・・・である。対応策は・・・・を行うこと。理由は・・・・だから」

これにより、ポイント・題意をはずさなくなった！

（３）２次に使う１次知識はある程度絞り込み、早期に「ファイナルメモ」化し、現場復元訓練した。

（４）過去問の答案は保管しておき、２回目・３回目の解答と比較、前進ぶりをチェックした。

（５）事例Ⅳに関しては、１年間の余裕があったので、計算問題の十分な稽古と出題パターンを鍛錬。

４．弱小勉強会でよかったこと

①自主運営・ワイワイガヤガヤ・双方向式のフランクな勉強会なので、**無条件に楽しい団体**です！
（良い意味で、ゆるくて自由な運営）
⇒長続きする　⇒モチベーションが上がる　⇒土曜日が待ち遠しい！
②様々な受験予備校に属する経験豊富な先達から、テキストでは学べない、有形無形のノウハウを習得できる！
③回答プロセスを口に出すことで、理解が深まる。
受験に臨む自分の強み、弱みを立体的に把握できる！
④世話好きな方が多く、サイボウズに相談事を書けば誰彼となく助言・意見をもらえます。
本当にありがたかったです！！！！
例えば、稲垣さんにはＡＡＳの解答お作法本を教えていただき、さっそく購入。全部はマネできませんでしたが、「課題は・・・理由は①・・・②・・・」的な、設問要求どに忠実なわかりやすい記載マナーは大切だと感じました。

⑤**お酒**がお好きな論客の人が多くて助かります（笑）（SWOTのＳ＝酒）

５．おわりに

予備校なしの２回目受験で合格させていただけたのは、弱小のおかげです。この御恩返しを執行部の皆様と実施致します。会計担当をベースに、主として２次組の皆様のお役に立っていきたいと思います。苦手克服法が自分の持ち味と思うので、事例Ⅳ・Ⅲを中心に皆様に寄り添います。